

二復連第 六九号

昭和二十二年 三月二十二日

第二復員局連絡部長

終戦連絡中央事務局総務部長 殿

潜水艇の行動及び停泊情報に同する件

一九四七年 三月 五日 附六四三四 L S I Z で「リーガル、セクション」から要求のあつた首題の件は別紙の通りである。

(別紙日本文及参考英文各一添)

(終)

海軍

(別紙)

一、記録殆んど喪失せしむるもの確あることは不明であつて現有記録によれば次のことが推定し得らるる程度である。

即ち一九四四年十月上旬頃に横須賀に入港した日本潜水艦として伊三六一潜又は伊三六二潜の河水の一艦か或は兩艦が該当すると思はれる。

而して右の二艦は当時横須賀を基地として「ウエーキ」島に對する糧食輸送に従事してゐた。

二、伊八潜の行動は同じく前項同様記録喪失せるための確あることは不明であつて次の程度のお答しか提出出来ぬことを遺憾とす。

(1) 伊八潜が印度洋作戦を終つた「マサニ」より内地に帰着した時期は全然不明であつた單に次のことが推定出来る。

(別紙)

一、記録として残存するもの、的確なものは不明であつて、奥書記録に多少の誤りがあるが、推定して得らぬことには疑念がある。

即ち一九四四年十月十日の東京に横濱に入港した日本潜水艦としては伊三六一艦又は伊三六二艦の河氷かの一艦か或は両艦が該当すると思はれる。

而して右の二艦は当時無敵艦と見做されて、アメリカに島に討する糧食輸送に従事してゐた。

二、伊八潜の行動は同じく前記の同様に報告されたため、的確なことは不明であつた。次の種々の回答から推定出来ることゝも、遺憾とす。

(1) 伊八潜が印度洋に戦艦を撃つた、バスマンバガリ内地に帰着した時期は全く不明であつた。軍に出発したことが推定出来る。

海軍

1. Although we can not find out accurate ^{data} due to the loss of most of the relevant records, it is presumed as follows according to the remaining data now on hand:

The Japanese submarines which arrived in Yokosuka around the early part of October 1944, might have been either Submarine I-361 or Submarine I-362, or both of them. These two submarines at the time in question were engaging in the transportation of provisions to Wake Id. with Yokosuka as their base.

2. As to the movement of Submarine I-8, it is our regret that we can furnish the request information only to the following extent on account of the loss of the relevant records, just same situation as that mentioned in para. 1 above.

a. The date of the arrival of Submarine I-8 in the homeland from Penang after completing her operations in the Indian Ocean is quite uncertain and we can only presume the following:

Submarine I-8 was transferred from the 8th Submarine Squadron to be affiliated directly with the 6th Fleet on 5 November 1944 and consequently her assigned duty must have been changed on the same date. Hence it is presumed that the submarine was in the homeland around the middle part of November 1944.

But it is uncertain which naval port the submarine returned from Penang.

b. The last operational movement of Submarine I-8 was as follows:

On 20 March 1945 left Kure area for her operations in the South-western Islands area (Okinawa area), but missing since the end of March of the same year.

1698

3. With regard to Para. 3 of your memorandum, nothing is known to us, because we have no relevant records nor clue for investigation on the requested matter.

編發	保期	3	20	永
關係	機期	(迄付發)	(迄結完)	永

別紙
子
子

書類級

昭和二十二年三月二十五日起案

起案者
捺印

起案者
電話番號

月

日發付

發付掛
捺印

發付後起
案者捺印

主務局、部
取扱者捺印

大臣

次官

書記官

(主務)

副官

史書班
總務課
山本

湯谷
關口

總務部
人事部
調査部
連絡部

二復系部六六九号

昭和二十二年三月二十二日

第二復員局連絡部長

終戦連絡中央事務局局長殿

軍令	施設	航空	艦政	法務	經理	醫務	軍需	教育	人事	兵備	軍務	官房	局部	受月日	發月日

1700

潜水艦の行動及浮上情報に關する件

一九四七年三月五日附「リーカムセラニシ」より「古田三四」LS-2
に眼會のあはれは別紙の通りである

（首題の）

（終）

（別紙の本文及び手紙本文各一紙）

別紙

一、記録強んど喪失せよため的確なることは不明であつて、現有記録によれば次のことか推定し得る。

その程度である。

即ち一九四四年四月月上旬頃に横須賀に入港した

日本潜水艇としては伊三六一潜水艇又は伊三六二潜水艇の何れかの一艇か、或は両艇が該着岸すると思はれる。

而して右の二艇は着岸時横須賀を基地として、少五ノキ島に對する糧食輸送に従事してゐる。

日本政府

二 伊入替の行動に關しは前項同様記録喪失せる
ための確なることは不明である。次の程度に回答す

一が提出出来るは「二」を遺憾とする

(1) 伊入替加。印度洋作戦を終つて、ポタニダリ内地

に歸着した時期は全然不明である。單に次の
ことが推定出来る

これは一九四四年十一月五日附で伊入替は伊入潜水
戦隊から除かれ第六艦隊附屬になり、且つて青島

に、この時期には同艦の任務は変更され、

日 本 政 府

である。十月中旬頃には内地にありしものと推定
し得る。但し同艦が十三年の内地の何れか
軍港に歸着し其後不明である。

(2) 伊予の最後の作戦行動は一九四五年三月二十日
北島方面を出境し南西諸島(沖縄方面)に

作戦し其後あつて同年三月末より消息不明とす。

三、第三項については記録もなく調査するに手掛りなく
不明である。

(終)

日 本 政 府

書類綴

昭和三年二月六日起案
起案者 捺印
電話番號 二三三
月 日 發付
發付掛 捺印

主務局、部
取扱者捺印

發付後起
案者捺印

(主務)

史実班

副官

大臣

次官

書記官

總務部 總務課長 局員

人事部 局長

調查部 課長

運輸部 局長

二後送予
比五比早

昭和三年二月八日

第二復員局運輸局長

運輸部事務局長

編綴	保期	3	20	永
關係	機期	(送付發)	(送結完)	永
	種類			

局部	受月日	發月日
官房		
軍務		
兵備		
人事		
教育		
軍需		
醫務		
經理		
法務		
艦政		
航空		
施設		
軍令		

號番

一

一

伊一七八潜

伊一七八潜に関する件

史 實 班

一九四七年一月二十八日附「リリガル・セクシヨン」より五三五二LS
Zで照會のあつた首題の件は左の通である。

(別紙)

伊號第一七八潜水艦の沈没海域及乗員戦死の期日について既に提出した報
告が區々であつたこととは誠に申譯ない。

以下この簡達につき説明をする。

(一)伊號第一七八潜水艦の沈没海域について

一九四六年八月二日附第二復員省提出による「日本海軍艦艇表」によれ
ば沈没海域が「ソロモン」方面となつてゐるが、これは右の表を複製し
る當時極めて不完全な記録と少数の關係者の記憶に基いて複製された爲
に生じた誤りであつて其の後關係者を調査したることによつて、濠洲東岸
方面に作戦中消息不明になつたことが明かにされたのである。

海 軍

(二)伊號第一七八潜水艦乗員の戦死期日について

潜水艦の沈没時機は適確に判定出來ないのが通例であるが乗員の戦死を認定するのは右乗員が確實に生還しないと見極めた上戦死の認定が下された。この爲に潜水艦乗員の場合には消息不明になつてから約二ヶ月後の期日を以て戦死期日と認定されたことが屢あつた。

伊號第一七八潜水艦の場合もこの場合と同様であつて實際に消息不明となつた時機は一九四三年五月下旬から六月中旬の間であつたが中央に於て戦死と認定したのは一九四三年八月四日であつた。

即ち一九四六年一月二七日附の報告には實際に消息不明になつた時機を述べ、右以外の報告では戦死を認定した期日を示したので相違を生じたのである。

即ち伊號第一七八潜水艦喪失の期日と地域は一九四三年一月一日附復員廳
ヤニ復員總務部長 櫻井 季吉 証明書白 (一九四三年一月一日附復員廳
三日附「リール」セリシヨシ四〇九一シス一ニヒ計する田舎)に記載してある通り
ある。

二樓連牙三十四号

明治三十二年三月八日

外務省の連想部長

各教連会下で中務省の方針を中長

外務省の連想部長

一九三二年一月一日(日)から二月一日(土)まで、本会委員の調査に
照会を承りました。調査の結果、本会委員の調査は、本会委員の調査に
照会を承りました。調査の結果、本会委員の調査は、本会委員の調査に
照会を承りました。調査の結果、本会委員の調査は、本会委員の調査に

(株)

(株) 連想部長 田中 隆吉

(一) 訓政

伊予第一七八潜水艦の沈没海域と乗員戦死の期日については既に述べた報告が区別をあることは既に申し述べた。以下に相違点の予察明を述べる。

(一) 伊予第一七八潜水艦の沈没海域について

一九四六年八月三日伊予第一七八潜水艦乗組員が提出した「日本海軍報機要」は、潜水艦沈没海域が「ロモ」の南となつてゐるが、これはこの乗組員が報告した当時（一九四六年四月頃）の「日本海軍報機要」の記載と多数の同僚者の記憶に基いて速急に作られたものである。従つて、戦後の後一部記録も、同僚者から聞き取られたことによつて、濠洲東岸の海面に下戦中同艦不明になつたことが明かにされたのである。

(二) 伊予第一七八潜水艦乗組員の戦死期日について

潜水艦の沈没時機は正確に判明出来なかつたが、同例であるが乗員の戦死も、断定することは右乗組員が正確に記憶しないことと見極

めの上戦死の認定が下された。この為には日本艦乗員の場合は
消息不明となつたから約二ヶ月後の期日を以て戦死期日を認定
すべきことが標準であった。

甲午戦争と乙未戦争の両方の場合と同様であつた。實際に
消息不明となつた戦死者は一九四三年五月下旬から六月中旬の間で
あつたが、戦死に於て戦死と認定したのは一九四三年八月四日であ
つた。

即ち一九四六年一月一日の戦死者の報告には、實際に消息不明にな
つた時機を述べ、若し戦死者の戦死と認定した期日を示
したのが、戦死者の認定に於ての標準である。

甲午戦争と乙未戦争の両方の戦死者の期日を、戦死者は一九四六年一月一日附
三項連表三五七号で提出した。戦死者は、第二項連表の戦死者部長の
「戦死者明書」に於て、戦死者である海軍員である。

(参)

It is a matter for sincere regret on our part that there were some discrepancies among our replies already submitted in compliance with your request concerning the location where the Submarine I-178 sank and the date on which her crew members fell in battle. We must apologize for the foregoing, but these discrepancies arose not without reason, which is as follows:

1. The location where Submarine I-178 sank.

According to "The Complete List of the Japanese Navy" submitted by the Second Demobilization Ministry dated 2 August 1946, she was described to have sunk in Solomon Area. This table was prepared in haste around April 1946 depending upon the memories of a few persons concerned as well as a scanty data far from complete, which led to the error.

Upon later investigation, however, on further data and on some other persons involved, it was revealed that she became missing while operating in the sea area off the eastern coast of Australia.

2. The date on which the crew members of Submarine I-178 fell in battle.

Usually it is almost impossible to ascertain with exactitude when a missing submarine sank. The crew members of a missing submarine used to be officially recognized as killed in battle only when it became certain that they would never return alive. Consequently there were many cases of submarine crew members being officially recognized as killed in battle as long as two months after they were missing.

So it was with Submarine I-178, which was actually missing sometime between the latter part of May 1943 and mid-June of

that year. But it was only on 4 August 1943 that her crew members were officially recognized as killed in battle by the Central Authorities.

In short, the report dated 27 November 1946 referred to the date when the submarine was recognized as actually missing, while reports other than that above referred to the date on which her crew members were officially recognized to have fallen in battle. Hence the variance occurred.

To state concretely, the date on which and the sea area in which Submarine I-178 was lost are as mentioned in the certificate of 10 December 1946 issued by the Director, Administrative Division, Second Demobilization Bureau, Demobilization Board.

六月一日付調査依頼の潜水艦関係事項に對し回答

資料課資料班長殿

史実班

1-52 (艦長海軍少佐 宇野龜雄)

三月 内地出張

四月下旬 昭南出張

八月上旬 (ビスマルク方面) 以後連絡なし

搭乗物件は不明な事も、該期間に特別任務のため独乙に向付出張した潜水艦は右記一隻のみである。

終

海軍

二復達 第八八六号

昭和二十三年五月十三日

第二復員局連絡部長

終戦連絡中興事務局 梁芳部長殿

終戦連絡中興事務局 梁芳部長殿

一九四七年四月二十九日附... 左首題の件は別紙の通りである

(別紙 日本及支那等軍務文書一添)

海軍

(別紙)

一九四四年六月五日、印度洋に於て作戦行動を
し、日本潜水艦は伊十六潜、伊十八潜、及伊八潜
の三隻が、その行動の概要は次の表の通りである。
従って、Nallora 附近に於て、六月五日、日本潜水艦が、伊十六と伊十八
の二隻が、伊十六潜の護衛する中、伊十八も同潜水艦は生
存者の合計は、その日の調査は不能である。

艦名	作戦期間	作戦区域	結果
1165	自 1944-5-31 迄 7-20	Seemabaja 及び 洲西北岸に在る 印度洋	撃沈艦沈し

海軍

30

007

1166	自 1944-6-下旬 至 8-下旬	印度洋中隊	1944年7月24日 大東海軍司令部 海軍艦隊部 に提出する
	自 1944-8-下旬 至 琉球返時		
48	自 1944-7-10 至 8-20	Bay of Madagascar Sea Mine Sweeper	海軍艦隊部

二婦人俘虜に關して當時の印度洋中隊潜水艦作戦に關係
 のあつた生存者(パイロット)に關係を包含して數次に直
 り詳細に調査したところによると日本潜水艦が婦人を救助し
 來たる事實は全く聞知して居ない
 情況の如くであつて、海軍艦隊部及び其の報告の消息に關して
 上述の情報を提供することから来るものは、遺憾がある

(終)

海軍

1. The Japanese submarines which made operational movements in the Indian Ocean during June and July 1944 were three, viz., Submarines I-165, I-166 and I-8. The outline of their movements is as shown in the following table.

From this table it can readily be seen that if the SS NELLORE was attacked and sunk by a Japanese submarine, the latter must be no other than Submarine I-166. But of her crew members no survivor is existent, which precludes further investigation.

3. As regards lady ^{internes,} ~~passenger~~, the survivors who had any connection with the submarine operations in the Indian Ocean have been investigated repeatedly and elaborately. The result, however, proved that none of them are aware that there was any such fact as a Japanese submarine rescued ladies.

It is a matter for regret on our part that such being the case we are unable to furnish you any further information concerning the fate of the SS NELLORE or that of her passengers.

Name of Submarine	Period of Operation	Region of Operation	Remarks
I-165	From 31 May 1944 to early July 1944	That part ^{of} the Indian Ocean extending from Soerabaya to North-western coast of Australia.	She attacked or sank no vessel.
I-166	From latter part of June 1944 to early part of August 1944	Middle part of the Indian Ocean.	She was never heard since she left port in August 1944. No information is available concerning vessels she attacked and sank.
	From latter part of August to the time of her sinking.		
I-168	From 10 July 1944 to 20 August 1944	That part of the Indian Ocean extending from Penang to Madagascar.	She attacked or sank none.

GENERAL HEADQUARTERS
SUPREME COMMANDER FOR THE ALLIED POWERS
Military Intelligence Section,
General Staff

APO 500
 29 April 1947

SUBJECT: Miss A. Harris, passenger on S/S "Nellore".
 TO : Central Liaison Office.

1. On 29 June 1944 the S/S "Nellore", seven days out of Bombay en route to Australia, was torpedoed by a Japanese submarine. Testimony submitted by survivors indicated that four lady passengers, including Miss A. Harris and one lay-by lady, were taken aboard the Japanese submarine from lifeboats.

2. The Imperial Japanese Government is directed to investigate immediate investigations and to furnish a full report on the fate of Miss A. Harris and the other three ladies not later than 15 May 1947.

FOR THE ASSISTANT CHIEF OF STAFF, G-2:

J. W. SCHMIDT,
 Chief, Japanese Liaison Section

Received: 30 April 9.20 a.m.
 Shukan : PE
 Copy : 3 of GA

RF

配付先

軍 調 文 人 總
 政 査 書 事 務
 班 部 課 部 課

1719

史文館蔵

二復 第一〇八三號

昭和二十二年七月四日

総務局長 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

第一復 陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

「コレキドール」神に於ける日本潜水艦に関する件

一九四七年六月九日附 G-3 SCAP より調査要求のあつた「コレキドール」神に於ける日本潜水艦に関する件は別紙の通りである。

(別紙日本文及参考英文各一紙)

(終)

海軍

(一) 第一

(1) 日本潜水艦にして一九四二年一月上旬より三月下旬迄の間に消息不明となつた潜水艦は三隻であつた。二隻は右記方面一隻は「ポート・デア」
「ロイヤル」洋にて沈没せしものと推定せる記録がある。

(2) 一九四二年一月中旬以降二月に亘り日本潜水艦にして菲島方面に行動したものはなほと推定される。

(3) 本件は記録不十分のため確實を缺くが當時の關係者にして生存者の記憶によるものなることを附言する。

(二) 第二

ENCLOSURE

I. There were three Japanese submarines that went missing during the period extending from the early part of January to the latter part of February 1942, of which, according to records, two were inferred to have been sunk in Hawaiian waters while another off Port Darwin.

II. It is generally recognized that there were no Japanese submarines that operated in Philippine Waters during the period extending from mid-January to February 1942.

III. The above statements cannot be said sufficiently accurate because of the absence of adequate records. None-theless, they are prepared basing upon the memories of survivors who actually took in the relevant affairs in those days.

手紙
No. 65

SID/HS No. 65

昭和二十六年二月二十一日

第二復員局 殘務處理部 資料課長

吉田英三

連合軍司令部 G-12 歴史課

大前 敏一 殿

ギルバート沖に於ける潜水艦の活動に關する情報について（第二回回答）

昭和二十五年十二月二十五日要求のあつた首題の件について一月二十二日
附 SID/HS No. 61 を以て回答した際、資料未整理のため追て提出のこととし
てあつた第六項を別紙の通り送付する。

（別紙添）

（終）

六 マーシャル群島攻略の場合の日本潜水艦の同方面展開並びに活動

米軍のギルバート攻略の際中部太平洋方面に在った我が活動可能の潜水艦の殆んど全部が作戦に参加し多数の潜水艦を喪失したが基地に歸還した潜水艦はいずれも修理を行う必要があつた。これが爲米軍のマーシャル來攻時には我が潜水部隊は集團を以て組織的な作戦を實施し得る状況ではなかつたが行動可能の潜水艦はすべて戦場に進出し敵の輸送路遮断並びに我が孤立基地への補給等に從事した。その概要は左の通りである。(記録が不備を爲戦闘行動の詳細不明)

潜水艦名	行 動 概 要
伊 一 一	一八二二〇〇〜 一九二二二〇〇 エリス諸島方面偵察 一三三一〇〇 偵察 一九二二二〇〇以降消息不明 一九三三二〇 沈没認定
伊 四 三	一九三三二二〇 東カロリン、マーシャル方面作戦 一九三三三〇以後消息不明

伊一七五	一九二二七 トフツク發マイシヤル方面作戰 三二〇以后消息不明
呂三九	一九二二〇 南太平洋及マイシヤル方面作戰 一九三三 ウオツゼ東方に於て敵艦撃沈報告後消息なし 一九三五 沈没認定
呂四〇	一九三二 マイシヤル東方海面及ギルバート方面作戰 一九三二 以後消息不明
呂四二	一九三二 東カロリン及マイシヤル方面偵察並に攻撃
呂四四	一九三二 ミレ輸送並にメジユロ島偵察索敵

(註)

右以外にも尙若干の潜水艦が作戰行動に参加して居る可能性があるが目下のところその資料が見當らない。

◎一九四三年十一月二十四日のギルバート沖に於ける潜水艦活動

一、伊一九、伊二一、伊三五、伊三九、伊一七五及び呂三八はトラツクから出たか、クエゼリンから出たか？ 其の日時？

二、當時の⁶司令部の位置？ 上記潜水艦に乗っていた潜水戦隊司令部ありや？ これらの司令部はマキン、タラワ攻略を知った日時？

三、十月二十一日又はその後トラツクを出た伊四〇及び伊一七四は此の方面に指し向けられたか？ 若し然らば何故に到着が遅れたか

四、伊一七五はリスカムベイを襲撃したのは〇二一三（東京時間）〇五一三（米軍使用時）となつてゐるが、〇六〇九（米軍使用時）に第二の護送空母に向つてゐる魚雷一本が発見されてゐる。伊一七五がこの魚雷を打つたか？

五、伊一七五潛は一九四四年二月十日クエゼリン附近にて行衛不明の記録と

一九四四年九月二十五日バラオ北方にて沈没せる旨の情報あり？

六、マーシャル群島攻略の場合の日本潜水艦の同方面展開竝に活動？

◎一九四三年十一月二十四日のギルバート沖に於ける潜水艦活動

○一、伊一九、伊二一、伊三五、伊三九、伊一七五及び呂三八はトラツクから出たか、クエゼリンから出たか？ 其の日時？

○二、當時の8^甲司令部の位置？ 上記潜水艦に乗っていた潜水戦隊司令部ありや？ これらの司令部はマキン、タラワ攻略を知った日時？

○三、十月二十一日又はその後トラツクを出た伊四〇及び伊一七四は此の方面に指し向けられたか？ 若し然らば何故に到着が遅れたか？

○四、伊一七五はリスカムベイを襲撃したのは〇二一三（東京時間）〇五二三（米軍使用時）となつてゐるが、〇六〇九（米軍使用時）に第二の護送空母に向つてゐる魚雷一本が発見されてゐる。伊一七五がこの魚雷を打つたか？

○五、伊一七五潜は一九四四年二月十日クエゼリン附近にて行衛不明の記録と一九四四年九月二十五日パラオ北方にて沈没せる旨の情報あり？

○六、マーシャル群島攻略の場合の日本潜水艦の同方面展開竝に活動？

⑦

セギルバート及びマイシヤル作戦間に喪失した日本の爆撃機、戦闘機等の機數（正確なものがない）概數？

米側の有する數字では地上で撃破二三機、激撃で四四機、米艦船及び地上攻撃時に對空砲火竝に上空直衛による撃墜三六機となつてゐる。

（終）

✓ (一) 護衛空母大鷹 (Taiyo) 及び沖鷹 (Ganyo) は一九四三年四月九と十日の夜米潜水艦タニー (Tunny) によりトフツク島南西に於いて攻撃されたが同伴していた艦艇如何？

✓ (二) 海軍油槽船知床 (Saitetoko) は一九四三年九月十一と十三日の間に米潜水艦パーミット (Permit) によりクエゼリー西方に於いて攻撃されたが同伴していた護衛艦及船は如何？

✓ (三) 空母飛鷹は一九四三年六月十日東京灣外にて米潜水艦トリガーに攻撃をされたがその際に護衛に當っていた驅逐艦如何？

四 眞珠灣攻撃に参加した日本の全潜水艦は何隻か？
その所屬潜水戦隊及び潜水隊名？

五 眞珠灣方面を水上機で偵察した潜水艦名、發進點、偵察點及びその日時
六 一九四三年十一月十六日日本の一潜水艦は 5-50°N 151-10°E の地點で「浮上潜水艦を發見して魚雷三本を發射しその中の一本は命中せりと」右日本潜水艦は何か？

セギルバート及びマイシヤル作戦間に喪失した日本の爆撃機、戦闘機等の
機數（正確なものがなければ概數）？

米側の有する數字では地上で撃破二三機、遼撃で四四機、米艦船及び地
上攻撃時に對空砲火竝に上空直衛による撃墜三六機となつてゐる。

（終）

一、護衛空母大鷹（*Taiyo*）及び沖鷹（*Chuyo*）は、一九四三年四月九、十日の夜米潜水艦タニー（*Tunny*）によりトフツク島南西に於いて攻撃されたが同伴していた艦艇如何？

二、海軍油槽船知床（*Sahtoko*）は一九四三年九月十一、十三日の間に米潜水艦パーミット（*Permit*）によりクエゼリ西方に於いて攻撃されたが同伴していた護衛艦及船は如何？

又沈没又は損害を受けたものありや？

三、空母飛鷹は一九四三年六月十日東京灣外にて米潜水艦トリガーに攻撃をされたがその際に護衛に當つていた驅逐艦如何？

四、真珠灣攻撃に参加した日本の全潜水艦は何隻か？

その所屬潜水隊隊及び潜水隊名？

五、真珠灣方面を水上機で偵察した潜水艦名、發進點、偵察點及びその日時
六、一九四三年十一月十六日日本の一潜水艦は $5^{\circ}30'N$ $151^{\circ}10'E$ の地點で『浮上潜水艦を發見して魚雷三本を發射しその中の二本は命中せりと』右日本潜水艦は何か？

セギルバート及びマイシヤル作戦間に喪失した日本の爆撃機、戦闘機等の
機數（正確なものがないければ概數）？

米側の有する數字では地上で撃破二三機、~~遂~~撃で四四機、米艦船及び地
上攻撃時に對空砲火竝に上空直衛による墜墜三六機とを~~つ~~ひる。

（終）

自一九四一年一月二八日
 至一九四一年一月二八日
 布哇方面所在潜水部隊の攻撃状況調査

艦名	所屬	攻撃状況	
		攻撃期日	行動海面
伊九潜	1SS	四一―一二―一二	オアフ島の北東方面海面
伊一潜	2SS	四三―一二―一四	オアフ島附近海面
伊四潜	2SS	四二―一二―一四	〃
伊七四潜	3SS	四二―一二―一八	ニイハウ島附近海面
伊六九潜	3SS	四二―一二―一八	オアフ島南方海面
伊七一潜	3SS	四二―一二―一八	〃
伊一〇潜	2SS	四二―一二―一〇	オアフ島の南方約七〇〇哩
伊二六潜	1SS	四二―一二―一八	布哇と米本土西岸の間附近オアフ島の東北方約千哩附近と推定す

備考 伊七〇潜は一九四一年一月二九オアフ島南方海面にて敵の攻撃を受け消息不明
 随つて同日の同艦の攻撃効果不明

攻撃状況

五乃至六千屯級貨物船一隻撃沈

商船一隻を雷撃効果なし

大型貨物船一隻撃沈

大型空母一隻攻撃効果なし

驅逐艦一隻雷撃効果なし

巡洋艦一隻雷撃効果なし

〃

大型貨物船一隻撃沈

三千屯貨物船一隻撃沈

自一九四一年一月二二日一五八布哇方面所在潜水部隊の攻撃状況調査

艦名	所屬	攻撃期日		行動海面	攻撃状況
		攻撃期日	攻撃期日		
伊九潜	1SS	四一―一二―一二		オアフ島の北東方海面	五乃至六千屯級貨物船一隻撃沈
伊一潜	2SS	四二―一二―一四		オアフ島附近海面	商船一隻を雷撃効果なし
伊四潜	2SS	四二―一二―一四		〃	大型貨物船一隻撃沈
伊七四潜	3SS	四二―一二―一八		ニイハウ島附近海面	大型空母一隻攻撃効果なし
伊六九潜	3SS	四二―一二―一八		オアフ島南方海面	驅逐艦一隻雷撃効果なし
伊七一潜	3SS	四二―一二―一八		〃	巡洋艦一隻雷撃効果なし
伊一〇潜	2SS	四二―一二―一〇		オアフ島の南方約七〇〇哩	大型貨物船一隻撃沈
伊二六潜	1SS	四二―一二―一八		布哇と米本土西岸の間附近オアフ島の東北方約千哩附近と推定す	三千屯貨物船一隻撃沈

備考 伊七〇潜は一九四一年一月二一九オアフ島南方海面にて敵の攻撃を受け消息不明
 随つて同日の同艦の攻撃効果不明

自一九四一—一九四一—二一—八
 至一九四一—二一—五
 布哇方面所在潜水部隊の攻撃状況調査

艦名	所屬	攻撃期日		行動海面	攻撃状況
		日	時		
伊九潜	1SS	四一—二一—二	二	オアフ島の北東方面	五乃至六千屯級貨物船一隻撃沈
伊一潜	2SS	四二—二一—四	四	オアフ島附近海面	商船一隻を雷撃効果なし
伊四潜	2SS	四二—二一—四	四	〃	大型貨物船一隻撃沈
伊七四潜	3SS	四二—二一—八	八	ニイハウ島附近海面	大型空母一隻攻撃効果なし
伊六九潜	3SS	四二—二一—八	八	オアフ島南方面	鹽遂艦一隻雷撃効果なし
伊七一潜	3SS	四二—二一—八	八	〃	巡洋艦一隻雷撃効果なし
伊一〇潜	2SS	四二—二一—〇	〇	オアフ島の南方約七〇〇哩	大型貨物船一隻撃沈
伊二六潜	1SS	四二—二一—八	八	布哇と本土西岸の間附近—オアフ島の北東方面約千哩附近と推定す	三千屯貨物船一隻撃沈

備考 伊七〇潜は一九四一—二一九オアフ島南方面にて敵の攻撃を受け消息不明
 随つて同日の同艦の攻撃効果不明

◎一九四三年十一月二十四日のギルバート沖に於ける潜水艦活動

一、伊一九、伊二一、伊三五、伊三九、伊一七五及び呂三八はトラツクから出たか、クエゼリンから出たか？ 其の日時？

二、當時の6F司令部の位置？ 上記潜水艦に乗っていた潜水艦隊司令部ありや？ これらの司令部はマキン、タラワ攻略を知った日時？

三、十月二十一日又はその後トラツクを出た伊四〇及び伊一七四は此の方面に指し向けられたか？ 若し然らば何故に到着が遅れたか

四、伊一七五はリスカムベイを襲撃したのは〇二一三（東京時間）〇五一三（米軍使用時）となつてゐるが、〇六〇九（米軍使用時）に第二の護送空母に向つてゐる魚雷一本が発見されている。伊一七五がこの魚雷を打つたか？

五、伊一七五潜は一九四四年二月十日クエゼリン附近にて行衛不明の記録と

一九四四年九月二十五日パラオ北方にて沈没せる旨の情報あり？

六、マーシャル群島攻略の場合の日本潜水艦の同方面展開並に活動？

◎一九四三年十一月二十四日のギルバート沖に於ける潜水艦活動

○一、伊一九、伊二一、伊三五、伊三九、伊一七五及び呂三八はトラックから出たか、クエゼリンから出たか？ 其の日時？

○二、當時の6F司令部の位置？ 上記潜水艦に乗っていた潜水艦隊司令部ありや？ これらの司令部はマキン、タラワ攻略を知った日時？

○三、十月二十一日又はその後トラックを出た伊四〇及び伊一七四は此の方面に指し向けられたか？ 若し然らば何故に到着が遅れたか

○四、伊一七五はリスカムベイを雷撃したのは〇二一三（東京時間）〇五一三（米軍使用時）となつてゐるが、〇六〇九（米軍使用時）に第二の護送空母に向つてゐる魚雷一本が発見されている。伊一七五がこの魚雷を打つたか？

○五、伊一七五潜は一九四四年二月十日クエゼリン附近にて行衛不明の記録と

一九四四年九月二十五日バラオ北方にて沈没せる旨の情報あり？

○六、マーシャル群島攻略の場合の日本潜水艦の同方面展開竝に活動？

一、護衛空母大鷹 (Taiyo) 及び沖鷹 (Chuyo) は一九四三年四月九、十日の夜米潜水艦タニー (Tunny) によりトフツク島南西に於いて攻撃されたが同伴していた艦艇如何？

二、海軍油槽船知床 (Shimofoko) は一、九四三年九月十一、十三日の間に米潜水艦パーミット (Permit) によりクエゼリ西方に於いて攻撃されたが同伴していた護衛艦及船は如何？

又沈没又は損害を受けたものありや？

三、空母飛鷹は一九四三年六月十日東京灣外にて米潜水艦トリガーに攻撃をされたがその際に護衛に當つていた驅逐艦如何？

四、真珠灣攻撃に参加した日本の全潜水艦は何隻か？

その所屬潜水艦隊及び潜水艦名？

○五、真珠灣方面を水上機で偵察した潜水艦名、發進點、偵察點及びその日時

○六、一九四三年十一月十六日日本の一潜水艦は $5^{\circ}50'N$ $151^{\circ}10'E$ の地點で『浮上潜水艦を發見して魚雷三本を發射しその中の二本は命中せりと』右日本潜水艦は何か？

セギルバート及びマーシャル作戦間に喪失した日本の爆撃機、戦闘機等の

機數（正確なものがないければ概數）？

米側の有する數字では地上で撃破二三機、遼撃で四四機、米艦船及び地上攻撃時に對空砲火竝に上空直衛による撃墜三六機とを^つひる。

（終）

史実班長殿

復二第一一八四號

昭和二十四年七月二十日



引揚後廳復員局
第二復員局殘務處理部長

外務省連絡局長殿

一九四二年米國オレゴン州を燦撃した日本潜水艦に關する
公式記録について(回答)

一九四九年七月十三日横濱運調を通じ第八軍から調査片要求のあつた首題の
件に關する戦時中に作製した公式記録は現在保有してゐない。
但し終戦後連合國軍最高司令部總參謀部第二部戦史課の指令によつて當部寄
料諒史實班で、當時の關係者の記憶に基き昭和二十三年三月調製した「第二
段作戦(自一九四二年四月一日起至一九四三年三月)に於ける潜水艦作戦其の二」の中
に別紙の記事
がある。

(別紙添)

(終)

1740

北米西岸を攻撃した日本潜水艦搭載飛行機の行動に關する記事

一九四二年八月十五日イ25潜水艦はオレゴン州西南部の山林地帯に對する焼夷弾攻撃の目的を以て横須賀を出撃大圏航路をとり約二週間後にオレゴン州沿岸に到着した。か當時同方面の天候不良であつて飛行機の發進揚收不適と認められ、ランコ岬南方海面を行動して天候恢復を俟つた。其の後天候恢復したので九月中旬及び月末に同艦はオレゴン州西南部の山林地帯に對し搭載機（偵察用を應撃用に改装したもの）を以て焼夷弾攻撃を敢行した。（實施期日不明確）

（終）

資料課長

資料班長

第二班長

昭和廿四年五月六日

GR 伊藤氏より電話

別紙の各項に關するあらゆる情報を提出せよ

根山事務官

1742

(終)

1. May 16, 1942 one aircraft from a Japanese submarine I-21 flew over Suva Fiji on a reconnaissance flight.
2. On 24 May, 1942 the same aircraft from the same submarine made a flight over the City of Auckland, New Zealand.
3. In March (or the end of Feb.) 1942 an aircraft piloted by a Lt. Fujita flew over the City of Wellington and Auckland, New Zealand.
4. Did a Japanese submarine attack a warship off Suva Harbor, Fiji at the end of February, or early March, 1942?

The warship was a cruiser "Monowai" and was returning with a convoy from Fiji to New Zealand.